

当院におけるセクシャルハラスメント対策 -電子カルテによる情報共有の効果

長崎腎病院 長崎腎クリニック

○佐藤貴子, 白井美千代, 丸山祐子, 船越 哲, 橋口純一郎

【はじめに】

維持透析施設では、同一患者に同一スタッフの集団で頻回の治療を行うためセクハラの原因となりやすいが、セクハラを立証し対応することは困難である。

【目的】

当法人スタッフへの電子カルテによる情報共有がセクハラ対策として有効か検証する。

【方法】

セクハラの実態を調査後『セクハラと思われたらカルテ記事に残す』ことを徹底し情報共有での意識変化を調査する。

【結果】

セクハラ被害の80%は女性であり、内容はわいせつな冗談などの『言葉によるもの』が75%と多数を占めた。カルテ記事化の後、実際にセクハラが成立すると思われた事象は90%を超えた。実際に施設長が対応した事例はなく、記事化することでそのスタッフのストレス軽減や、対応に協力体制がもてた等の意見が聞かれ、カンファレンス件数はゼロとなった。

【考察】

電子カルテによる情報共有はセクハラ対策に有効と思われるが、患者の個人情報保護の問題にも抵触するため今後慎重な運用が必要である。